


IIAS NEWSLETTER

International Institute for Advanced Studies

39

July 2004

 財団法人
国際高等研究所

<http://www.ias.or.jp>

index

報 告

研究プロジェクト成果の発表

「スキルの科学」研究プロジェクト..... 2004.3.4

「東西の恋愛文化」研究プロジェクト..... 2004.3.13

理事会・評議員開催

..... 2004.6.28

募 集

公開講演会

「文明のアーカイブ コンピュータ民族学の展開」

講師:杉田繁治(龍谷大学教授)

2004.9.18(土)14:00~16:00

親子

サイエンス・スクール

「君の不思議を探そう 小さな磁石、大きな磁石」

講師:本河光博(東北大学名誉教授)、鳥海光弘(東京大学教授)

2004.10.23(土)10:30~16:30

■最近の出版物 ■研究活動・公開事業等の状況

報 告

『ものづくりにおけるスキルの
技術化』の新機軸を探る

公開講演会 2004.3.4

共催:日本工学アカデミー・ものづくりクラスター協議会

スキルの基礎的理解とその技術化にかかわる新しい研究化の変化、
スキルの考え方や取り組みについて、それぞれの立場で講演。

「ものづくりスキルの本質
(知・造・伝・創)を考える」

研究代表者:岩田一明 (大阪大学・神戸大学名誉教授)

ものづくりのスキルは、技能(者)と技術(者)の螺旋的相互関係のなかで、レベル向上が行われてきたが、今後は多面的で“新しい付加価値のある製品の創出”のためにスキルを上手に伝承し、いかに発展させていくかが重要である。とくに、情報化・デジタル化の中で、新しい「情報スキル」「ITスキル」を考え出すことが必要で、その将来に“新システム科学”という学術分野が生まれてくる可能性が展望される。

「(株)デンソーにおける
スキルの考え方と技術化の試み」

土屋総二郎 (デンソー取締役)

「限りない質(製品・仕事・人間)の高さ」を追求し続けているが、それを支えているのは、「技術」と生産システム、それを作り運用している「人」であり、その相互作用による「スキルの進化」である。生産におけるスキルは、単純作業から芸術的な技術まで多彩だが、さまざまな領域で人と機械の協調と技能と技術の絡み合いから、新しい「知恵」とその実用化つまりスキルの進化を、着実に進めている。

「スキルを考慮した インターフェイスを展望する」

白井良明（大阪大学教授）

人の優れた視覚と認識能力や、多数の触覚と筋肉を備えた手を再現できるスキルがどう生み出されるか、が大きな課題で、人々の日常生活を支えるサービスシステム(サービスロボット)の開発面で、機能性・信頼性・安全性・気軽なインターフェイスなどが追究されているが、「本物」の出現は、これからである。「人と協調する」将来のサービスロボットには、“システムの状態が外から分かり易い”ということが必要条件であり、“状況に応じた適切な対応できる”機能を持ちうるか、が大きな課題である。

「ロボットのスキルとは何か」

吉川恒夫（京都大学教授）

ロボットが見習う人間の作業は「知能」と「技能」に分けられるが、「技能」を『学習や修得という観点を捨て、人間ないし動物に特有の意識的な動作・作業の遂行能力のすべて』とするとともに、「人工技能」を『機械がなんらかの作業を行うのを人間が観察・体験して、人間(または動物)の技能と類似のものであると感じたとき、その機械が実現している技能』と定義づけている。徹底した人間機能の観察や多重的な実験から、巧みな「技能」がモデル化し、新しい「人工技能」へと展開する可能性を探っている。

(文責・事務局)

報告

『東西の恋愛文化』

フォーラム 2004.3.13

古今東西の文学作品に見られる恋愛文化の諸相について、

高等研課題研究「東西の恋愛文化」プロジェクトの7人のメンバーが3年間の研究成果を報告。

研究代表者の青木生子・日本女子大学名誉教授(上代文学)は『萬葉集』を取り上げ、「恋」の語源的な考察を示すとともに、恋歌の本質と諸相を紹介。「東洋の叙情は西洋のそれより古く、万葉の恋の多様さは注目に値する」「日本文化の基礎」をなすものと評価。

久保田淳・東京大学名誉教授(中世文学)は、性愛表現に触れ、藤原俊成は性愛表現を自主規制し、紫式部も男女の逢瀬を暗示的に表現するにとどまった点を指摘。他方、説話集には直截な表現が見られることから「中世文学をみやびの美意識で律しきれない」とした。

時代を下って、中野三敏・福岡大学教授(近世文学)は、天保時代の小説『春色梅暦』に登場する自立した女性たちの自由で活発な恋愛のあり方に着目。社会的背景＝東西の封建制度の差異にその源を求めた。

岩淵宏子・日本女子大学教授(近代文学)は明治から現代にいたる女流作家の小説の「求愛表現」の変化を、女性の主体性確立の歴史を照らす指標としてたどり、「今も文化的、社会的な性差が残っている」と付言した。

中川久定・高等研副所長(仏文学)は近松門左衛門『曾根崎心中』と水村美苗『本格小説』を比較。ともに絶対

的な恋愛を追求し、植物を愛のメタファーとして使ったが、前者は絶対化、後者は空無化を象徴させ、逆転が見られる。「両作品を隔てる3世紀の間の心の変容」とした。

外国との比較として孫久富・相愛大学教授(中国文学)は日中の古代文学が描いた「女性の恨み」を。中国では殷代に確立した一夫一婦制や後代の儒教思想で離婚の権利を持たない妻が夫の不実についての苦労や悲しみを吐露したのに対し、日本では通い婚の風習から夫の訪れを待つ女性の心情を描き、恨みや咎めは見られない。表現のありようの相違を両国の婚姻形態に求めた。

ジュリー・ブロック京都工芸繊維大学助教授(仏文学)は、詩作を通じて愛の姿を凝視した安部公房とリルケを比較。ともに狂おしさや歓喜といった要素は含んでおらず、むしろ別離が愛を結びつける姿を描き、重要な意味を持たせた。果たして愛の真理は孤独なのか、に迫った。

多様な視点からの講演は、さながら「恋愛文化の絵巻物」を展覧する趣だった。青木代表は「この絵巻はどこまでも続く。人間存在の根本問題として、永遠の課題として、さまざまに考え続けられるべきものだ」と締めくくった。

(文責・事務局)

報告

第53回理事会・第47回評議員会を開催

2004.6.28

2003年度事業報告、並びに収支決算について了承された。詳細は高等研ホームページ <http://www.ias.or.jp> 参照。

公開講演会 の参加募集中

講師：杉田繁治 龍谷大学教授・高等研フェロー
 開催日時：2004年9月18日(土)午後2時～4時
 会場：国際高等研究所レクチャーホール
 定員：120名(先着順) 参加費無料

応募方法：連絡先を記入の上
 「杉田講演会」係まで。
 詳細はホームページ参照。

講演趣旨

博物館はかつては古いものをただ展示する場として考えられていた。しかし見方を変えればそれは人類の文化・文明の足跡を刻む場であると考えられることができる。博物館をさらに発展させて博情報館とし、人類の歩みを記録するアーカイブとしてどのようにそれをデザインするか。国立民族学博物館において世界に先駆けて導入させた「コンピュータ民族学」の応用としてこの問題を考えてみたい。

「君の不思議を探そう—小さな磁石、大きな磁石—」

親子 サイエンス・スクール2004に小学5年、6年の児童と保護者の参加募集中

講師：本河光博 東北大学名誉教授・高等研フェロー
 鳥海光弘 東京大学新領域創成科学研究科教授
 開催日時：2004年10月23日(土)10時30分～16時30分
 会場：国際高等研究所
 募集人員：小学校5年生、6年生の児童と保護者55組110名
 参加費用：2,000円(講演記録冊子、昼食代含む)

応募方法：ハガキ、ファックス、電子メールのいずれかで、
 連絡先住所、電話番号、児童・保護者の氏名、性別、
 小学校名、学年、「先生に聞いてみたいこと」を記入のうえ、サイエンススクール係まで。
 詳細はホームページ参照。



2003年 親子 サイエンス・スクールの風景

講演趣旨

磁石は不思議な性質をもっています。つながっていないのに鉄やコバルト、ニッケルなどをひきつけます。しかし、銅や水など、その他ほとんどの物質には強い力を及ぼしません。針状にした磁石は地球の南北をさします。なぜこんなことが起こるのでしょうか。今日では電車の切符を初め多くのカードなどに磁石を用いた記録媒体が多く用いられ、磁石が我々の生活になくてはならないものになっています。磁石にまつわる話を紹介します。

プログラム 「磁石って何?」:本河光博
 「原子スケールの微小な電磁石とりんごも浮く強い電磁石」:本河光博
 「7000kmの巨大な電磁石:地球を知ろう」:鳥海光弘
 フリートーク:金森順次郎、本河光博、鳥海光弘

最近の高等研出版物

高等研報告書「情報生物学講義」シリーズ 松原謙一 監修
 0302「ゲノム配列からの遺伝子発見」 矢田哲士 著 定価 ¥630

研究活動及び公開事業等の状況

研究活動予定 2004年7月～12月

開催月日	研究会内容	研究代表者
7月9日	「JICAと共同研究の法モデル」共同研究会	北川善太郎
7月11日	「センサー論」研究会	鷺田清一
7月18日	「芸術と社会 芸術表現における伝統と革新の問題」能楽分科会	佐々木正子・金春康之
7月20日	「進化と文法」フェロー研究会	藤村 靖
7月24日～25日	「水フォーラム」	井口洋夫
7月24日	「スキルの科学」研究会	岩田一明
7月29日～30日	「学習の生物学」研究会	星 元紀
7月31日	「21世紀の宇宙開発・宇宙環境利用の問題 人文社会科学からのアプローチ」研究会	木下富雄
8月8日～11日	「ダイナミクスからみた生命的システムの進化と意義 構造と機能の固定化と変容に関する数理的観点」ワークショップ(札幌)	津田一郎
8月17日～24日	「隙間 自然、人間、社会の現象学」ワークショップ	鳥海光弘
8月26日	「物質科学とシステムデザイン」システムデザイン分科会	金森順次郎・仲田周次
8月27日	「物質科学とシステムデザイン」幹事会	金森順次郎
9月4日	「芸術と社会 芸術表現における伝統と革新の問題」工芸作品分科会(輪島)	佐々木正子・北村昭斎
9月5日～6日	「スキルの科学」研究会(札幌)	岩田一明
9月5日～7日	「センサー論」研究会(沖縄)	鷺田清一
9月7日～11日	「第5回コンピューショナル・マテリアルズ・デザイン」(CMD)ワークショップ	赤井正純
9月9日～11日	「量子情報の数理」研究会(長野)	大矢雅則
9月24日～25日	「物質科学とシステムデザイン」全体会議	金森順次郎
10月9日	「開発途上国と日本人長期政策アドバイザー」研究会	橋本日出男
10月14日～16日	フンボルト財団国際会議	
10月16日	「スキルの科学」研究会	岩田一明
10月15日～16日	「思考の脳内メカニズム」研究会	波多野諄余夫
11月16日～17日	「ダイナミクスからみた生命的システムの進化と意義 構造と機能の固定化と変容に関する数理的観点」ワークショップ	津田一郎
11月19日～21日	「量子情報の数理」研究会	大矢雅則
11月26日～27日	「科学と技術のはざま」フォーラム	本河光博・新庄輝也・遠藤康夫・伊藤厚子
11月26日～27日	「思考の脳内メカニズム」研究会	波多野諄余夫
11月27日	「スキルの科学」研究会	岩田一明
12月18日	「センサー論」研究会	鷺田清一

公開講演会の予定 2004年7月～11月

開催月日	講演者
9月18日	「文明のアーカイブ コンピュータ民族学の展開」 杉田繁治
10月23日	<親子>サイエンス・スクール2004(小学5年～6年の児童とその保護者対象) 「君の不思議を探そう 小さな磁石、大きな磁石」 本河光博・鳥海光弘
11月13日	「ものとは何?」(仮題) 遠藤康夫

その他の動向 2004年6月～7月

開催月日	内容	委員長・議長
6月11日～12日	企画委員会	金森順次郎
6月11日	情報出版委員会	北川善太郎
6月28日	第53回理事会・第47回評議会	立石義雄
7月3日	正副所長会議	金森順次郎

編集・発行者	財団法人 国際高等研究所	〒619-0225 京都府相楽郡木津町木津川台9丁目3番地 TEL : 0774-73-4001 FAX : 0774-73-4005 E-mail : editor@iias.or.jp http://www.iias.or.jp
--------	--------------	---